

第78回

会社訪問

株式会社サイテック



会社プロフィール

代表者：代表取締役 齋藤孝男

所在地：〒111-0052 東京都台東区柳橋1-23-11
齋藤ビル3F

TEL：03-5822-5125

FAX：03-5822-5126

設立：2006年10月

事業内容：電動ピペット等のリキッドハンドリング製品の輸入

URL：<http://www.sci-tech.co.jp/>

(株)サイテック 代表取締役 齋藤 孝男 氏へのインタビュー

聞き手：野木賢一（広報委員） 白濱康彦（事務局）

（取材・編集協力：クリエイティブ・レイ株）

“電動ピペット”をはじめとする 海外の優れたリキッドハンドリング製品を輸入販売

—まず御社の主な事業内容をお教えいただけますでしょうか。

当社で扱っているのはリキッドハンドリングのカテゴリーに入る製品で、電動や手動のピペットとその消耗品、プレートディスペンサー、吸引システム、細胞培養システム、分注システムなどです。それらの製品を海外から輸入し、日本国内のディーラーに

卸したり、ディストリビューターにお取り扱いいただいています。

中でも主力となっているのが電動ピペットで、当社にはピペットの精度測定ができる施設があり、ピペットのバリデーション・サポートやメンテナンス・サービスにも力を入れています。



ビジョン・シングルチャンネル
ビジョン・16チャンネル



ピペットボーイ・プロ



バキュシップ・ポータブル・
アスピレーター



パイアフロ96
96チャンネル電動ピペッター



ビジョン・シングルチャンネルで精製水の重量測定テストを行う齋藤社長様。

— ピペットのバリデーション・サポートはどのように行っているのでしょうか。

ピペットの精度測定に関する国際基準に準拠した測定環境、測定手順を用い、精製水を使った重量法で精度検定を実施しています。検定の手順はまず当社にユーザー登録をしていただいて受付をし、内部および外部のクリーニング、部品交換やメンテナンス、キャリブレーション、精度測定などを行い、精度検定成績証を発行します。また、精度測定に使用した機器のトレーサビリティが必要な場合には、別途料金で測定機器メーカー発行の校正証明書とトレーサビリティ体系図のコピーを提供しています。

— 商品主力は電動ピペットということですが、それらの製品の特長やセールスポイントはどのような点でしょうか。

電動ピペットは今から20年ほど前に出てきたもので、手動のピペットに比べ、誰でも優れた正確性と再現性でピペティングができ、ルーティーンの作業が非常に楽になります。ご存知のように手動のピペットは吸った分を出すだけで、扱いには上手下手が出ます。この点、電動ピペットは吸い込む液体の容量を設定しておく、設定したスピードで吸引します。また、どれだけのスピードで出すかも設定によって決められるので、個人差なく正確に出すことができ、一度に出すことも、分けて出すこともできます。それとピペットの先端にわずかな液体



が残ることがありますが、空気を少しブローアウトすることで全部出し切ることができます。

最近では分析の性能が上がってきたため、扱うサンプルが少量になってきており、その分、少ない量の液体をより正確に扱う必要が出てきています。電動ピペットは1マイクロリットルという少量を扱っても、誤差はプラスマイナス5%以内ですので、今のニーズに合っているとと言えます。

— 電動ピペットのほかにどのような製品があるのか、いくつかご紹介いただけますか。

新製品として、ポータブル・アスピレーターや96チャンネルの電動ピペッターなどがあります。

ポータブル・アスピレーターはバイオ系のラボなどに向けた製品で、各種容器内の上澄み液や余分な液体を吸引する製品です。例えば、培養液の廃液を処理するには上澄み液などを吸引し滅菌してから産廃業者に渡す必要がありますが、これはそういう用途に使われます。

従来の製品は床に置くような大型で、音がうるさかったのですが、この製品は軽量、コンパクトで場所をとりません。充電式なので持ち運びが容易で、ケーブル類も邪魔にならず、音も静かです。センサーがあり、吸引している容器内が真空になると自動で止まるようになっています。



ビジョン・16チャンネルで模擬テストを行なう齋藤社長様。

— 96チャンネルの電動ピペッターについては、いかがでしょうか。

96チャンネル電動ピペッターは、96または384ウェルマイクロプレートへの分注を高精度で迅速に行えるよう設計された、96本のチップを装着するピペッターです。コンパクトにデザインされていて、クリーンベンチ内での使用も可能ですし、通常の手で持って扱うピペットと同じような感覚で操作ができる、使いやすい製品です。

従来の自動分注装置は500万～1000万円という高額なものが多く、使用方法も複雑でした。しかし、この製品は操作が容易で、価格は200万円ほどです。昨年からは扱い始め、売れ行きも好調です。

— 御社で扱っている製品はインテグラあるいはバイアフロというものが多くそうですね。

バイアフロは電動ピペットを製造するアメリカの会社だったのですが、2年前にスイスのインテグラ・バイオサイエンス社に買収されました。しかし、買収後もバイアフロという商標は残りました。

実は当社を立ち上げたときは、バイアフロ・ジャパンとしてやっていた時期がありました。そのアメリカの本体が買収されることになったわけですが、幸いというべきか、バイアフロとインテグラの両方を扱うことになり、当社としては扱う製品の幅が広がることになりました。

— 御社では海外製品の扱いが中心ということですが、どのような経緯からそれらを取引するようになったのでしょうか。

私はもともとピペット類の製造販売をしているニチリョーにおり、そこでピペットを海外へ輸出していました。そこを退社し、一時期、顕微鏡を扱ったりしたのですが、アメリカに滞在していた時期もありました。それらを通して出会った方々から、自社製品を日本で売ってほしいと私に声がかかったのです。海外の展示会へ出かけていき、そこで偶然、かつて取引のあった方と出会って、新たに取引が始まったりしたこともありました。ピペット類を扱い始めて35年ほどになりますが、人とのつながりは大切だとつくづく感じているところです。

— 現在の会社を立ち上げられてから強く印象に残った出来事、あるいは、困難だとお感じになったことがあれば、お聞かせいただけますか。

あえて言えば、先ほども触れましたが、96チャンネル電動ピペッターの販売を始め、売れ行きが順調なことが印象に残る出来事です。

一方、現在の会社を私一人で立ち上げたため、当初は営業、機器のメンテナンス、カタログづくり、経理と、私がすべてやり、いくらあっても時間が足りないというのが苦労した点です。しかしその甲斐もあり、売上がある程度上がってきて、人を雇うようになり、今は少し楽になりました。

— ところで、96チャンネルの電動ピペッターなど、比較的高額な商品はどのように販売しているのでしょうか。

1週間から10日ほどユーザーのところに機器を貸し出し、実際に使っていただくという形で販売をしています。

— 貴社の経営方針や経営理念などをお教えいただけますか。

経営理念と言いますか、輸入を仕事としていますので、私たちがやるべきことは、ユーザーが使って便利

だと思いう良い製品を探し出し、ご紹介することだと思っています。現在扱っている商品は、ユニークで性能も良く、リピートオーダーをしてくださるユーザーも増えています。今後も、海外の展示会などに出かけていき、良い商品があれば、それを日本に紹介していきたいと考えています。

— 御社の今後の目標や課題などを、お聞かせいただけますか。

機器の修理やメンテナンスサービスを行っていますが、その更なる充実を図っていきたくと思っています。それと営業の者によく言っているのですが、デモ機を貸し出したものの、最終的に注文に結びつかなかった場合、どうして注文をいただけなかったのか、その理由をきちんと聞き、今後の参考にしていきたくと思っています。

— ビジネスに限らず、そのほか心がけていることや大切にしていることはございますか。

長くこの仕事を続けてきて思うことですが、人には誠意をもって接する、それが大切だと思っています。

私の場合、日本からピペットの輸出をすることで海外にたくさん知り合いができ、その方々に助けられて今の仕事があります。現在、スイスのインテグラの製品を扱っているのも、30～35年前に知り合った人たちのおかげです。誠意を持って接すると、それが後々、自分を助けてくれる。まさに、そういう経験をしてきました。

— 話題は変わりますが、休日などはどのように過ごされているのでしょうか。

休日は主にテニスやゴルフなどをして過ごしています。テニスは高校時代に軟式、大学から硬式をやっており、現在は住んでいる地域のテニス仲間と、毎週のように区営のコートに行き、2～4時間ぐらい楽しんでいます。一方、ゴルフは月に1、2回、出かけるという感じです。

— 最後に科学機器協会へご意見やご要望などがありましたら、お願いいたします。

展示会が共同開催となって、以前と比べると、科学機器業界の方だけでなく、研究者や大学関係者などの来場も多くなっているように思います。こうした展示会のときなど、協会などが会員企業とそうした研究者の方々との接点を作ってくれるような、何かの催しを開いていただくと良いのではないかと考えています。

子どものころからの趣味は蝶の収集 採集のために海外へ出かけていくことも

子どものころから蝶を収集するのが好きで、これを今も楽しんでいます。この間も蝶を見に、台湾やマレーシアなどへ行ってきました。蝶の収集の魅力はその美しさであったり、採集をしていると子どものころに帰ったような楽しさがあることです。最近は家の中に蝶の標本が増えすぎて、採集は控えるようにしています。そのかわり写真を撮影したりするのですが、写真だとあまり印象に残らず、肉眼でしっかり観察する方向に向かいそうです。



野木広報委員に東南アジアで撮影した貴重な蝶の写真を、お見せいただきました